

令和2年度 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業
 ～この想い 未来(あす)へとつなぐれ 十七字～
 「復興部門」 県北域内選考作品集

県入賞作品 (最優秀賞)

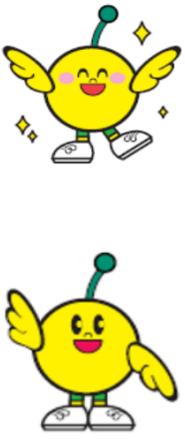
十年後 笑顔で食べる 桃りんご
 福島大学附属中学校 一年 鹿俣 芽生
 安心と おいしさ伝え 子と食べる
 母 鹿俣 敬子

県入賞作品 (優秀賞)

ゆめ見ばし 歩いて高く ゆめつづく
 半田醸芳小学校 二年 田中 彩瑛
 相馬まで 続くよ架け橋 夢見橋
 母 田中 良子

県入賞作品 (佳作)

福島の あの笑顔を取り戻そう
 福島大学附属小学校 五年 菅井ひより
 じい様が 負けでらんにと 苗を植え
 父 菅井 謙一



県北域内奨励作品

潮浴びの 賑わいみせる 相馬の海 父 鈴木 勝
 さんぽみち きれいになって よかったね 富田幼稚園 年中 鈴木 真乃香
 まかせてね 未来をつくる 私たち 蓬萊小学校 五年 加藤 舞優
 がんばろう あの日の気持ち わすれない 父 加藤 裕
 一つずつ 前へ前へ 進んでけ 月輪小学校 五年 橋本 悠
 あの時の 涙とくやしさを 忘れない 母 橋本 静香
 復活だ 小名浜港の 初がつお 復興の 願いを込めて 流灯会(りゅうとうえ) 母 早川 香純
 あと少し 笑顔あふれる 福島へ 下川崎小学校 六年 熊坂 遙大
 きっと来る 終息信じて がんばろう 母 熊坂 美津子
 ふるさとに 笑いあふれる 人の声 飯館の 大地に芽ぶく 人々の輪 母 安齋 静香
 こわれた地 みんなの声で よりきれい 「ありがとう」 涙が出るよ ポラントニア 母 佐藤 優子
 ミニトマト きいろいはなで みをつくる 上保原小学校 二年 中島 美空
 田んぼ道 緑のシュータン まぶしいな 祖母 中島 芳子
 復興庁 さらなる十年 後押しする 中央道 復興に向けて 後押しする 父 坂内 智広
 福島は 力を合わせて 復興だ さあ進め あきらめるなよ 明日の空 母 二階堂真由美
 被災した まちと心に 温もりを 子の気持ち 願ひ届け 被災地へ 母 伊藤 和美
 さいがいで こわれた場所が もととおり もどったね このまちにまた 安心が 妻案じ 津波背に振る 赤色灯 父 鈴木 満
 ダンプカー にをつみはしる ふっこのみち 岩根小学校 一年 鈴木 芽依

令和2年度の県北域内の
 応募総数は、3,625点
 (絆部門:3,059点 復興
 部門:566点)でした。
 たくさんのご応募ありがとう
 ございました。



くいしばり 一歩ずつでも がんばろう 岩根小学校 六年 漆畑 玖麗彩
 集まれば 大きな力 未来へと 母 漆畑 由香理
 取り戻す 今できること 少しずつ 伊達中学校 一年 亀岡 幸太
 声かけよう ひとりのじゃないよ だいじょうぶ 母 亀岡 英里
 忘れない 心と心 支援の輪 母 幕田 歩
 忘れない 震災前を 取り戻すまで 伊達中学校 三年 幕田 廉
 怖かった 地面の神様 怒った日 醸芳中学校 一年 大槻 和奏
 泣き叫ぶ あの日は母の 背(せい)を抜き 母 大槻 麻美
 向日葵は 希望を抱き 空をみる 大玉中学校 三年 須藤 翠
 種をまき 育てた孫の 未来(さき)を見る 母 須藤 すえ
 変わったね 見慣れた景色も 復興中 福島大学附属中学校 一年 相田 珠羽
 つながるね 心も道路も 中浜通り 母 相田 梨恵
 無くなるよ 寂しくなるな 仮の家 福島大学附属中学校 一年 山森 真佐彦
 仮の家 出て住み慣れた ふるさとへ 母 山森 絵里
 あの時の ピアノの音が よみがえる 福島大学附属中学校 一年 草野 愛莉
 子を越えし 海を思いついて ピアノ聴く 母 草野 香里
 手をつなぎ ふみ出せ大きな あと一歩 福島大学附属中学校 二年 山岸 いそら
 続けてく 福島復興 子と共に 母 山岸 朋子
 かの君に 会えず去りゆく いとかなし 橋高等学校 二年 望木 光希
 卒園式 やっと会えた 友と一緒に 橋高等学校 一年 菊地 琉翔
 背をのばし にぎやかさ待つ 永遠に 福島西高等学校 一年 渡邊 莉音
 日常の 笑顔の向こうに 過去の色 日大東北高等学校 三年 村田 天音

参加者のみなさんより

～お寄せいただいた感想から～

絆部門

このような機会があることによって、今一度見つめ直すことができました。子どもの話を聞く時間がどれだけかけがえないものか、再確認できました。(小学一年生 母)

お父さんとお母さんに改めて感謝しました。(中学一年生 女子)

成長した子供とのふれあいが少なくなっていく中、一緒に取り組んで話し合いをすることがとても大事だと感じていきます。(中学二年生 母)

母と一緒に俳句を考えて、俳句を考える楽しさが分かりました。(小学六年生 男子)

久しぶりに鉛筆を持ち、相手を思いながら書く時間をもらえて嬉しかったです。(小学六年生 父)

子どもが体験したことを家庭で話すことで、子どもが主体的になり、豊かな心を育むきっかけになりました。親にとっても良いきっかけになりました。(小学五年生 母)

地域への帰属意識が希薄になっている今、この企画はすばらしいものです。(小学六年生 祖父)

復興部門

親子で過ごす時間が多かった今年、いろいろな想いの中、子育てをした十一年間を振り返りました。この支援事業を通して、地元愛を再確認いたしました。(小学六年生 母)

親子で福島を見つめ直す機会になったので、参加して良かったです。(小学四年生 母)

被災地をいち早く住みやすい環境にして、町として栄えてほしいと、改めて心から思いました。(中学二年生 男子)

日本が世界に誇れる素晴らしい文学である俳句で、福島についてよむことができて、とても良い経験になりました。(中学二年生 男子)